

第9回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 配管減肉分科会 議事録

1. 日 時：2015年1月21日（水）13時30分～16時40分
2. 場 所：日本機械学会 第3・4会議室
3. 出席者：井手（東電）、川端（関電）、近藤（MHPS）、増田（東京PT）、大鹿（中電）、
五代儀（火原協）、竹石（東北電力）、橋井（富士電機）
代理者：なし
欠席者：朝倉（東芝）
オブザーバ：東（富士電機）、吉村（富士電機）、半澤（東北電力）、舟瀬（関電）
事務局：原

4. 配布資料

- 9-1 配管減肉分科会前回議事録案
- 9-2 配管減肉分科会委員名簿
- 9-3 第70回火力専門委員会議事録(案)
- 9-4 第72回発電用設備規格委員会議事録（案）
- 9-5 配管減肉に関する規格(CA1-2005)改訂案に関する資料
- 9-6-1 放射線透過式配管肉厚測定装置
- 9-6-2 3方向放射線測定透過法規格原稿
- 9-6-3 3方向放射線透過式配管肉厚測定装置の測定条件
- 9-7-1 火力設備配管減肉管理技術規格(TB1-2009)改訂案
- 9-7-2 改訂履歴
- 9-8 審議履歴表
- 9-9 電力安全小委員会での関連情報

5. 議題

- (1) 前回議事録確認 [資料9-1]
前回議事録（案）について確認を行ない、議事録案は承認された。
- (2) 分科会委員・役員の承認 [資料9-2]
川端委員の委員再任及び副主査の再任が、出席委員全員の賛成で承認された。
- (3) 報告事項
(3-1) 火力専門委員会報告（11月18日開催） [資料9-3]
第70回火力専門委員会の審議内容について、以下のとおり報告された。
 - ・火力専門委員会委員・役員の推薦承認
 - ・各分科会委員・役員の承認
 - ・第7回配管減肉分科会報告
配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)改訂案の審議状況、火力設備配管

減肉管理技術規格(JSME S TB1-2009)改訂の審議状況、放射線透過式配管減肉測定装置に関する審議状況について報告があった。

- (3-2) 規格委員会報告(12月10日開催) [資料9-4]
第72回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下のとおり。

- ・火力専門委員会委員・役員の承認
- ・火力専門委員会報告：火技解釈の許容応力の算出に用いる安全率3.5への引下げに関する動向についての質疑が報告された。
- ・火力専門委員会関連の審議事項はなし

- (3-3) 電力安全小委員会における関連情報 [資料9-9]
・事務局から、12月22日開催の電力安全小委員会の議題の内、JSME火力規格に関連する情報が報告された。
・また、JESCの国への火技解釈取り入れ案件リストと要請案件の取り入れ状況について紹介があった。

(4) 審議事項。

- (4-1) 配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)の改訂について [資料9-5]
○井手主査より配管減肉管理に関する規格(JSME S CA1-2005)の改定に関して、火力分科会からのコメントに対する対応案について説明があり審議を行った。
○コメントNo3に関して、技術的知見2.4.3において「過去5年間」→「2006年以降」の修正に合わせ、2行下の「5年」についても修正した方が良いので、原子力専門委員会配管減肉部会に連絡する。
○それ以外の対応については了承。
○審議後、次回火力専門委員会(2月25日)に改訂案を上程することが、委員全員の賛成により承認された。

- (4-2) 火力設備配管減肉管理技術規格(2009年版)の改訂案 [資料9-7-1,2]
○各委員が今回配布した改訂案を持ち帰り、さらなる修正点などがあれば、主査まで連絡する。
○火力専門委員会、発電用設備規格委員会への上程の準備として、規格の改訂前後を対比させた資料を作成する。作成資料の電子データによる書式および作業分担は、主査が今週中(1月23日(金))または来週の遅くならない時期に、メールにて連絡する。

- (4-3) 放射線透過式配管肉厚測定装置について [資料9-6-1,2,3]
富士電機東氏より、当該測定装置の測定条件と適用状況、パワーポイント資料の修正点、規格案について説明があり、審議を行った。

○規格案は、以下の点を考慮して見直す。

- ・8.1 試験計画（１）試験対象部位の選定

測定できないものを追記する。Ｔ管、２相流は測定できないことの明確化、口径、肉厚等その他の制限がある場合はそれを記載することが望ましいと考えられる。規格案について再考すること。

- ・8.3 評価

今回の規格案のように、測定誤差が全面に出た記載であると、ユーザーとして使いづらい面があるので、表現の見直し案を作成していただく。(1)測定方法のところで、測定誤差として記載するか、(2)余寿命評価において評価時の補正として記載するのがよいのかも検討事項。

- ・注の位置

注*1 は、(1)の項目の最後の部分に移動する。小項目ごとにクローズするように。

- ・添付資料 8.2 の図 3

右側の断面図は、配管であることが分かるように、記載範囲を広げる。

電源コードの図、走行台車制御装置の OFF は不要。

フォントをそろえる。

- ・添付資料 8.2（１） γ 線照射器

１パラグラフと２パラグラフで記載事項が異なるように読めるので、間に補足説明の文章を追記する。

- ・添付資料 8.2（２）検出器

NaI，CsIシンチレータに限定する必要があるか確認する。

- ・表現・用語の統一

有感領域、有感感度領域：JISに合わせる。

放射線ビーム、放射線照射ビーム：合わせる。

○各委員が資料の確認を行い、意見・コメントなどがあれば、2月20日までに主査へ連絡する。

○新規提案に関する資料が、3つの審議方針に合っているかの確認は、現在までの意見集約においては問題ないと考えているが、追加で気づいた点などがあれば、主査へ連絡する。

6. 次回開催予定

日 時：2015年4月10日（水）13時30分～17時00分

場 所：日本機械学会 第3・4会議室